

業 務 仕 様 書

1 委託業務名

令和8年度 IT 人材提案力強化事業企画・運営業務

2 業務の目的

近年、生成 AI の急速な普及により、市内 IT 企業を取り巻く環境は大きく変化しており、企業の競争力を維持・向上するためには、生成 AI を活用しながら顧客の業務や課題を理解し、最適な解決策を提案・実現できるエンジニアの育成が重要となっている。本事業は、市内 IT 企業に勤務するエンジニアの提案力を強化し、企業全体の競争力及び収益力の向上につなげることを目的としたものであり、本業務では、実践型研修を通じて、受講者が生成 AI を効果的に活用しながら、顧客理解、課題分析、要件整理、提案書作成及びプレゼンテーション等の実践的なスキルを習得し、顧客の課題に対して最適な解決策を提案・実現できる「提案型エンジニア」の育成を図る。

3 受講対象者

札幌市内の IT 企業に勤務するエンジニア 15 名～20 名程度

4 本業務の内容

本業務は次に掲げる業務により構成する。

(1) キックオフセミナーの企画及び開催

ア 実施内容

受託者は、本研修の実施に先立ち、キックオフセミナーの企画及び運営を行うこと。

セミナーは、参加者が生成 AI 時代における IT 業界を取り巻く環境の変化や、今後求められるエンジニア像について理解を深めるとともに、自社における人材育成及び人材戦略の方向性を考える契機となり、実践型研修への参加意欲を高められる内容とすること。

また、一方向の講義にとどまらず、ワークショップやグループディスカッション等の参加型プログラムを効果的に取り入れ、参加者同士の対話や意見交換を促進するとともに、生成 AI 時代に求められるエンジニア像や、自社における人材育成・採用に関する課題について主体的に考察できる内容とすること。

なお、プログラムの構成に当たっては、経営者、採用担当者及びエンジニアなど、多様な立場の参加者がそれぞれの視点から議論・意見交換できる内容となるよう配慮すること。

セミナーのテーマ、プログラム構成、実施方法等については、受託者からの提案を基に委託者と協議の上、決定すること。

イ 実施時期 提案による

ウ 開催形式 対面・オンラインでのハイブリッド形式を原則とする

エ 参加対象者 札幌市内 IT 企業の経営者、採用担当者、エンジニア等

オ 参加費 無料とすること

(2) 実践型研修の企画・運営業務

受託者は、本事業の目的を踏まえ、研修全体の企画立案、カリキュラム設計、教材作成及び運営を行うこと。

研修は、下表に掲げる各フェーズの到達目標を満たす内容とし、各フェーズの構成(実施順序)、時間配分、学習項目及び研修手法(講義、ワークショップ、グループワーク、ロールプレイ、生成 AI の活用等)については、受託者の知見及びノウハウを活かし、効果的な内容を提案すること。

また、研修は講義のみではなく、演習等を取り入れた実践型とし、受講者が研修で得た知識やスキルを実際の業務に活用できる内容とすること。

なお、研修内容及び実施方法については、受託者からの提案を基に委託者と協議の上、決定するものとする。

研修は、令和8年12月から令和9年2月までの間に札幌市内で実施するものとし、原則として対面形式とする。開催日時、会場その他必要な事項については、委託者と協議の上決定すること。

下記の要件をもとに企画立案及びカリキュラム作成を行うこと。

フェーズ	研修時間 (目安)	時期 (目安)	各フェーズの到達目標 (受講後に期待される到達レベル)
① 顧客理解・課題 発見	8H 程度	12 月	・顧客の業務や課題を理解するためのヒアリング手法を習得できる。 ・問いの立て方や仮説思考を身につけ、課題を整理・分析できる。 ・顧客課題を整理・可視化できる。
② 解決策立案・提 案設計	8H 程度	1 月	・顧客課題に対する解決策を論理的に検討できる。 ・導入効果や実現可能性を踏まえた提案を構成できる。 ・生成 AI を活用しながら、モックアップ作成、提案資料を作成できる。
③ 提案・プレゼンテ ーション	8H 程度	2 月	・顧客に伝わる提案・プレゼンテーションを実践できる。 ・講師及び受講者からのフィードバックを踏まえ、提案内容を改善できる。

【研修にあたっての留意事項】

ア 参加費

無料とする。

イ 研修の名称

受託者は、本事業の目的や内容が参加対象者に分かりやすく伝わる研修名称を提案すること。なお、名称は委託者と協議の上決定する。

ウ 生成 AI の活用

受託者は、研修において生成 AI を積極的に活用し、単なるプログラミング支援にとどまらず、顧客理解、課題分析、提案書作成、レビュー等の実務で活用できる内容を盛り込むこと。

(3) 研修環境の手配

ア 研修会場の手配

受託者は、委託者と協議の上、キックオフセミナー及び実践型研修に必要な会場を手配すること。

会場は札幌市内とし、公共交通機関による交通アクセスが良好で、受講者が参加しやすい場所を選定すること。

イ 研修用機器及び通信環境の準備

受託者は、研修の実施に必要な機器及び通信環境を準備すること。

講師及び受講者が使用するパソコン等の機器は受託者が用意することを基本とし、研修を円滑に実施できる十分な通信速度及び通信帯域を確保したインターネット通信環境(Wi-Fi 等)を用意すること。なお、受講者は、希望する場合、自身が所有するパソコンを使用できるものとする。

研修で使用する生成 AI サービス、ソフトウェアその他必要なライセンスについては、委託者と協議の上受託者において必要な利用環境を準備すること。

ウ 会場運営

受託者は会場設営、機材設置、参加者受付、研修終了後の撤収・原状回復まで一連の会場運営業務を行うこと。なお、具体的な作業及び委託者との役割分担については委託者と協議のうえで決定するものとする。

また、研修の円滑な運営及び受講者へのサポートを行うため、メイン講師のほか、受講者の進捗状況に応じて適切に支援できる体制を整えること。

(4) 運営管理

受託者は、キックオフセミナー及び実践型研修の円滑な運営に必要な進行管理を行うこと。

また、参加者の募集後における受講案内、開催案内、当日の連絡、問い合わせ対応、出欠管理等、参加者との連絡調整を行うこと。

なお、講師との連絡調整、タイムスケジュールの管理その他研修運営に必要な事項についても、委託者と連携しながら適切に実施すること。

5 広報及び参加者アンケートの聴取

ア 広報

本事業の周知及び参加者募集のため、告知用のフライヤーの作成を行い、PDF にて納品すること。

またWEBサイトやSNS等を活用したオンラインでの広報を実施するとともに、参加が見込まれる企業、業界団体への案内など、効果的な広報・募集活動を行い、参加の確保に努めること。

イ 効果測定

研修前後において、受講者の理解度、提案力及び行動変容等を把握できる評価手法を提案・実施すること。

また、キックオフセミナー及び実践型研修の参加者を対象としたアンケートを実施し、研修内容、満足度及び改善点等を把握すること。

ウ 分析及び改善提案

アンケート結果及び効果測定の結果を分析し、本研修全体の評価及び課題を整理するとともに、次年度以降の事業実施に向けた改善提案を行うこと。

エ 報告書の提出

上記内容をまとめ、最終報告書として委託者へ提出すること。

6 業務履行期間

契約締結日から令和9年3月 12 日(金)まで

7 必要経費の負担

本業務の実施に必要な経費(会場使用料、研修用機器及び通信環境の整備費、生成 AI サービスその他必要なソフトウェアのライセンス料、教材・資料作成費、講師及び運営スタッフに係る経費、広報費その他本業務の実施に必要な一切の経費)は、全て本業務委託料に含めるものとする。

8 提出書類

業務履行期間終了時 業務報告書 電磁的方法(電子メール等)にて提出すること。

本イベントについて、参加者数やキックオフイベント・研修の内容、アンケート回答内容などを列記し、写真等を用いて開催事実が客観的に確認できるものとする。

9 納入場所

札幌市厚別区下野幌テクノパーク 1 丁目 1-10 札幌市エレクトロニクスセンター
一般財団法人さっぽろ産業振興財団 IT 産業振興部

10 特記事項

- (1)この業務の中で疑義が生じた場合は、委託者および受託者双方の協議により処理する。
- (2)この業務の遂行にあたり委託者は、受託者が必要とする資料の提供について便宜を図るものとする。
- (3)この業務の遂行に当たり、必要があるときは相互調整のため打合せを行うものとする。
- (4)この業務の遂行に伴う打合せ、資料、計画などの内容については、外部に漏洩しないように注意すること。

(5)データ保護に関する事項

本業務で知れた情報については、本契約の履行期間及び履行後において業務上知れた個人情報保護を含むすべての情報を第三者に漏らしてはならない。データの取扱いについても同様である。
また秘密保持及びデータ取扱いについて、業務従事者その他関係者への徹底を行うこと。

(6)生成 AI 利用に関する留意事項

受託者は、本研修における生成 AI の利用にあたり、以下の事項を遵守し、受講者に対して適切な指導を行うこと。

ア 研修環境で利用する生成 AI サービスは、入力データが AI の学習に利用されない商用・エンタープライズ版の利用を推奨する。無償版等を利用する場合は、受講者に情報漏洩等のリスクを説明し、演習では仮想の顧客情報等のダミーデータのみを使用すること。

イ 受託者は受講者に対し、生成 AI の出力には誤情報や著作権侵害等のリスクがあることを周知し、実業務で活用する際には、必ず人による内容の確認・修正を行うよう指導すること。